

26年8月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成26年 7月20日～ 26年8月10日

2. 調査実施方法

全国の国産材製材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
8月分の回答企業数は19社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2

したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

ア. 国産材

(1) 製材用原木荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/8月	9月	10月
入荷動向	スギ	△ 50.0	0.0	22.7
	ヒノキ	△ 60.0	△ 15.0	10.0
	カラマツ	50.0	0.0	△ 50.0
	トドマツ	50.0	0.0	0.0
消費動向	スギ	△ 9.1	9.1	13.6
	ヒノキ	△ 35.0	0.0	5.0
	カラマツ	0.0	0.0	△ 50.0
	トドマツ	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
在庫動向	スギ	△ 45.0	△ 15.0	5.0
	ヒノキ	△ 45.0	△ 30.0	0.0
	カラマツ	△ 50.0	0.0	0.0
	トドマツ	50.0	25.0	25.0

スギ原木の入荷は8月の減少、9月の横ばいを経て10月には増加に、ヒノキは8月の大幅減少、9月のわずかな減少を経て10月には増加に、カラマツは8月の増加、9月の横ばいを経て10月には減少へ、トドマツは8月の増加の後、9月、10月は横ばいに。

スギ及びヒノキ原木の消費は8月の減少の後、9月、10月は横ばいないし増加へ、カラマツは8月、9月の横ばいが10月には減少に、トドマツは3ヵ月連続の減少で推移。

スギ及びヒノキ原木の在庫は8月、9月の減少の後、10月にはやや増加ないし横ばいに、カラマツは8月の減少が9月、10月は横ばいに、トドマツは3ヵ月連続の増加で推移。

(2) 製材原木価格動向 Weight. D. I.

品目	26/8月	9月	10月
スギ	22.7	18.2	31.8
ヒノキ	15.0	10.0	20.0
カラマツ	0.0	0.0	△ 50.0
トドマツ	25.0	25.0	25.0

スギ及びヒノキの原木価格は強保合ないしやや強保合で推移、カラマツは8月、9月の横ばいから10月は弱含みに、トドマツは強保合で推移。

モニターからのコメント

(原木荷動き)

・入荷は、合板工場の引き合いが弱まり一部の異常高値が是正される。しかし、カラマツについての不足感はまだ拭かれていない。トドマツはおおむね順調に手当が可能であるが、国有林のシステム販売の価格が高騰した結果、先行きの製品需要動向から考えても受け入れには及び腰となっている。消費は、カラマツについてはパレット、梱包が未だ好調であるが、ラミナ向けについては値下げ要請がきている。トドマツ羽柄材はストップ状態、木材利用ポイントの対象に輸入材が可能となり羽柄材で材積を稼ぐ必要がなくなったことらしい。補助制度は途中でころころ変わると良い面もあるが、このような目に遭うメーカーもあるので慎重な対応が望まれる。在庫は、カラマツの18cm以上の中目材が不足している。トドマツは羽柄材が停滞したことで原木在庫は増加傾向。

・トドマツ入荷増加、昨年のシステムの残り今年システムの残りと今年システムが一度に入荷、民有林からの出材も順調、消費も受注堅調、在庫は林道も整備され運材順調。

・スギ原木は夏枯れ、消費も売れゆき不振。

・スギ・ヒノキとも原木市場への出材が減少、特にヒノキの入荷が少ない（原木が集まらない）。昨年同月に比べ、市場在庫が5分の一まで大幅に減少。

・スギ、ヒノキの入荷は、天候不順により出材量は減少、季節的な少なさもあり、製材数量は変えないで能力並みの数量は続ける、在庫補充できないため在庫は当面は減少する。

・ヒノキは販売の状況を見ながらコントロールする。

・スギ、ヒノキ共入荷横ばい。

・スギ、ヒノキは材価低迷と虫害等により7月に続き入荷減少、秋口からは出材が増える見込み、消費はヒノキ柱は秋から多少荷動き回復するのでは…、スギも秋以降公共工事用の需要が拡大する見込み、出材量の回復と丸太の荷痛み懸念がなくなるにつれ在庫を増やしたい。

・ヒノキは8月は雨、台風のため減少、9月、10月は天候良く記念市等多くあり材の出荷が増加する、消費は8月猛暑で通常操業、9月、10月は需要出てくるし気候良く残業を開始する。

・スギは7月～8月は梅雨、台風で山から材が出てこない。

・今月も台風による雨の影響等で入荷が減少したままの状況、生産は落とさない。

・スギ入荷は、順調だがヒノキ入荷は極端に減少、ヒノキ販売不振のため消費減。ヒノキは在庫増。

・スギは、雨など気象状況が悪化のため今月は入荷減少だが、丸太価格の上昇もあり翌月以降は出るのではないか、消費は大型工場の稼働や秋需もあり、全体の生産量は上がるのではないかと。

(原木価格)

・トドマツは合板メーカー次第だが年内は横ばいか？

・急激な丸太在庫の減少で原木確保に走る傾向が現れてきた。

・スギ中目は下げ。

・スギ、ヒノキは天候不順により製材用原木数量不足が生じ直近は値上がりとする。

・8月は台風の状況次第、基本的には7月並と予想。

・安い水準のまま横ばい、スギは横ばいに近い下げ。

・スギ原木の流通が少し変わって行く、バイオマス等。

・スギ、ヒノキは出材不足のため価格上昇。

・A材だけでなくB、C材の不足感のムードはしばらく続きそう。

26年8月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

(3) 製材品荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/8月	9月	10月
生産動向	スギ	△ 18.2	18.2	18.2
	ヒノキ	△ 30.0	5.0	15.0
	カラマツ	0.0	0.0	△ 50.0
	トドマツ	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
出荷動向	スギ	△ 10.0	20.0	20.0
	ヒノキ	△ 30.0	0.0	15.0
	カラマツ	0.0	0.0	△ 50.0
	トドマツ	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
在庫動向	スギ	22.7	△ 4.5	△ 13.6
	ヒノキ	20.0	0.0	5.0
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0

スギ及びヒノキ製材品の生産は、8月の減少から9月、10月は増加に、カラマツは8月、9月の横ばいが10月は減少に、トドマツは3ヵ月連続の減少で推移。

スギの出荷は、8月の減少が9月、10月は増加に、ヒノキは8月の減少が、9月の横ばいを経て10月は増加に、カラマツは8月、9月の横ばいの後、10月は減少に、トドマツは3ヵ月連続の減少で推移。

スギの製材品在庫は、8月の増加の後、9月、10月は減少に、ヒノキは8月の増加の後、9月は横ばい、10月には再びやや増加、カラマツは横ばいで推移、トドマツは3ヵ月連続の減少で推移。

(4) 製材品出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		26/8月	9月	10月
スギ	柱角 KD10.5×3	△ 35.0	△ 10.0	10.0
	柱角 KD12×3	△ 36.4	△ 4.5	13.6
	通し柱 12×6	△ 18.8	0.0	0.0
	桁角	△ 12.5	6.3	6.3
	母屋角	△ 27.8	0.0	0.0
	タルキ	△ 31.3	△ 6.3	△ 6.3
	間柱	△ 44.4	0.0	11.1
	ヌキ	△ 31.3	△ 12.5	0.0
	平割	△ 31.3	△ 12.5	6.3
	ラミナ	△ 20.0	0.0	10.0
ヒノキ	柱角 KD10.5×3	△ 27.8	0.0	5.6
	柱角 KD12×3	△ 30.0	0.0	5.0
	土台角 10.5×4	△ 25.0	10.0	15.0
	土台角 12×4	△ 30.0	10.0	10.0
	通し柱 12×6	△ 20.0	0.0	0.0
	ラミナ	△ 8.3	△ 8.3	0.0
カラマツ土台角10.5×4	—	—	—	
〃 梱包仕組み板	0.0	0.0	0.0	
〃 ラミナ	0.0	△ 50.0	0.0	
トドマツサンギ	0.0	0.0	0.0	

スギ製材品は全品目が、8月の総じて弱保合が柱角、ヌキ及び平割りは9月のやや弱保合を経て10月には横ばいないしやや強保合、通し柱及び母屋角は9月、10月は横ばい、桁角は9月、10月ともやや強保合、間柱及びラミナは9月は横ばい、10月はやや強保合、タルキは9月、10月ともやや弱保合。

ヒノキ製材品は全品目が、8月の総じて弱保合から、柱角は9月の横ばいを経て10月はやや強保合に、土台角は9月、10月共に強保合、通し柱は9月、10月とも横ばい、ラミナは9月のやや弱保合から10月横ばいに、。

カラマツ梱包仕組み板及びトドマツサンギは3ヵ月連続して横ばい、カラマツラミナは8月は横ばい、9月は弱含み、10月は横ばい。

モニターからのコメント

(製材品荷動き)

- ・トドマツ生産は受注堅調、出荷はサンギは首都圏堅調、秋の繁忙期に向け残業も検討、生産即出荷続く。
- ・スギは土木用材の生産割合が増加、建築用材の荷動きは依然として低迷、ヒノキの製品在庫が減ってきた。まとまった注文には応じられない状況になりつつある。
- ・スギ、ヒノキは生産は落とさないで横ばい、消費は8-9月は横ばい、10月以降の盛り上がりを期待、在庫水準はさして変わらない。
- ・ヒノキの生産を増やす予定、ヒノキ製品引き合いが戻って来る感じがする。
- ・スギ、ヒノキとも在庫スペースの関係で極力必要量を生産、盆までの納品注文で多少の動きあったが盆明け以降は少し停滞か、9月より次第に荷動き改善の見込み。
- ・ヒノキ製材品の生産は9月から1時間の残業開始、8月は生産出来ただけ販売、9月、10月は需要出てくるので出荷は増加と思う。
- ・ヒノキ販売不振、在庫は増。
- ・スギは、丸太の消費と同じく全体の生産量は上がる見込み、出荷は製品の問い合わせも徐々に増加してきているので少しずつ秋需に向かっているのでは。

(製材品出荷価格動向)

- ・トドマツは受注堅調、価格横ばい。
- ・スギ建築用材の需要はイマイチであるが、原木価格の下げ止まりにより、無理な安値受注を控えている。ヒノキ原木不足による値上げを訴えても購入側（問屋、プレカット）は静観の模様。
- ・スギ並材は弱含み、売れ行き不振なのか他樹種に引っ張られるのか、ヒノキはほぼ底を打った感ある。
- ・ヒノキは今月はやや少なく9月-10月は7月並と予想、在庫は販売の状況を見てコントロールする。
- ・ヒノキは7月並の価格と予想。
- ・スギは横ばい、ヒノキは少し値が戻ってくる感じする。
- ・スギ柱角は7月より更に下げ、通し柱は丸太も少ないため安定、平角等も県産材、地域ブランド化等の需要が中心のため比較的安定、ヒノキは荷動き不振につき引き続き下げ。

26年8月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 3

イ. 外材

(1) 製材用原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/8月	9月	10月
仕入動向	米マツ丸太	△ 25.0	25.0	50.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
消費動向	米マツ丸太	△ 25.0	25.0	50.0
	NZラジアータ	0.0	50.0	50.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
在庫動向	米マツ丸太	△ 25.0	0.0	25.0
	NZラジアータ	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—

米マツ原木の仕入れは、8月の減少が9月、10月には増加に、NZラジアータ原木は3ヵ月連続で横ばい。

米マツ原木の消費は、8月の減少の後9月、10月共に増加へ、NZラジアータ原木は8月の横ばいから9月、10月は増加へ。

米マツ原木の在庫は、8月の減少が、9月の横ばいを経て10月は増加に、NZラジアータ原木は3ヵ月連続で減少傾向。

(2) 製材用原木等購入価格動向 Weight. D. I.

品目	26/8月	9月	10月
米マツ丸太	△ 50.0	△ 25.0	50.0
NZラジアータ丸太	0.0	△ 50.0	△ 50.0
北洋エゾマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ原板	—	—	—

米マツ原木の購入価格は、8月、9月の弱含みから10月は強保合、NZラジアータ原木は8月の横ばいから9月、10月は弱含み。

モニターからのコメント

(原木荷動)

- ・ラジアータは8月に入って多少受注増加。

(原木価格動向)

- ・米マツは中国の輸入量次第。
- ・ラジアータは中国向けのFOB価格が下がったため9月より日本向けが下がる予定。

26年8月分

製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 4

(3) 製材品の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/8月	9月	10月
生産動向	米マツ製材品	△ 25.0	25.0	50.0
	NZラジアータ製材品	50.0	50.0	50.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—
出荷動向	米マツ製材品	△ 25.0	50.0	25.0
	NZラジアータ製材品	50.0	50.0	50.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—
在庫動向	米マツ製材品	△ 25.0	△ 25.0	0.0
	NZラジアータ製材品	0.0	△ 50.0	△ 50.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—

米マツ製材品の生産は、8月の減少が9月、10月には増加に、NZラジアータ製材品の生産は3ヵ月連続して増加。

米マツ製材品の出荷は、8月の減少が9月、10月には増加に、NZラジアータ製材品の生産は3ヵ月連続して増加。

米マツ製材品の在庫は、8月、9月の減少が10月は横ばいに、NZラジアータ製材品の在庫は8月の横ばいから9月、10月は減少に。

(4) 製材品の出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		26/8月	9月	10月
米マツ平角		△ 25.0	0.0	0.0
米マツ正角		△ 50.0	0.0	0.0
米マツ小割		△ 50.0	0.0	0.0
北洋エゾマツタルキ		—	—	—
北洋アカマツタルキ		—	—	—
NZ梱包材(割板)		0.0	△ 50.0	△ 50.0
NZ梱包材(割角)		0.0	△ 50.0	△ 50.0
NZ土木用材		0.0	0.0	0.0
その他		—	—	—

米マツ製材品の出荷価格は、8月の弱保合が9月、10月は横ばいに。

NZラジアータ製材品の出荷価格は、梱包材は8月の横ばいが9月、10月は弱保合に、土木用材は3ヵ月連続して横ばいで推移。

モニターからのコメント

(製材品荷動き)

- ・ラジアータは8月に入って多少受注増加。

(製材品出荷価格動向)

- ・ラジアータは、丸太価格が値下がりしたことにより製材品価格も多少下がる。